

し 四 恩 園 えん NEWS

11
vol.40



今から7年前の同じ場所
月日は流れ、今では紅葉がきれいです。

- 発行者 北広島リハビリセンター 特養部四恩園
- 住 所 〒061-1153 北広島市富ヶ岡509-31
- TEL (011)373-6655
- FAX (011)373-6611
- ホームページ <http://www.shionen.or.jp>
- E-mail tokuyo@shionen.or.jp
- 編集発行 広報委員会
- 編集発行責任者 三瓶 徹

四恩園開設十五を迎えられたことを心より感謝申し上げます。

十五年前、十月一日は日曜日で二日から稼働したように思います。初日が何と夜勤でした。「始めまして」との自己紹介と夜勤挨拶を同時に交わしたことが先日のように感じます。毎時間の巡回に併せ、コール要請がないと不安になり、懐中電灯を伴い熟睡しているお客様の呼吸確認に向くなど、自分自身が徘徊。今思うと安眠妨害しながら不安を解消していたのかも？ 今では当たり前のことでも全てが初めてで、職員は右往左往の日々でした。トラの巻きはやっぱりお客様でした。「高齢者だから何も出来ない。だから手伝う」とんでもない！ 強靱な精神力・パワーで様々なことを教えていただき、助けてもらいました。それらが未熟ながらも一つひとつが形として出来上がってきたよう

に思います。耳が遠くなり、手足が少しずつ不自由になっても心だけは神様も奪わないでしょう。恩師にはいつまでも心豊かであってほしい。団塊世代に入り二〇一五年には四人に一人が高齢者になる時代。団地造成から四十年、北広島においても例外ではない。これからお客様・ご家族・ボランティアなど様々な力をお借りし、皆様が少しでも元気に暮らせるよう地域の止まり木として、四恩園が飛躍することを一住民としても願っています。四恩園との出会いは私にとって財産となりました。節目の年に居られたことに感謝してお礼申し上げます。今日も「修行不足だよ」と心優しい声が聞こえてくるようです。

(施設サービス課係長

西谷えつ)

『四季の会』開設十五周年事業を皆様と共に

平成七年十月初め、私の母が四恩園開設入所第一号として迎えられて以来、早十五年の歳月が過ぎ去りました。その間、施設では五年毎に大きな記念事業を計画され、温かな福祉地域づくりにご尽力頂いていますことはご承知の通りです。今年度も団地中央部に『地域福祉交流の場』の開設を目指した記念事業工事が急ピッチで行われています。

家族会『四季の会』でも、今年度は創立十五周年を迎えており、過日の敬老祝賀会に先立ち開催されました総会にて、新役員や事業計画が承認されました。私どもは創立五周年記念に『電子ピアノ』を贈呈しました。十周年には『記念花壇の造成』をさせて頂き、利用者の訪れる方々の心を癒しているものと確信するのであります。そこで今、十五周

年記念事業のアイデアを職員の皆様のお知恵をお借りしながら、形に表したいと検討しています。日ごろご家族への面会時を通して、妙案がありましたら、私どもに耳打ちして下さい。

ご家族の皆様が、満たされながら、心安らかな四恩園での毎日を過ごされますことを心よりご祈念申し上げますと共に、皆様方のご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

(家族会会長 鈴木誠次)



北広島市みなみ高齢者支援センター

「団地団らんネットメンバー」でベンチを設置

地域包括支援センターの業務に位置づけられている地域ケア会議のことを、北広島団地地区では『団地団らんネット』と呼び、自治会長、民生委員、福祉委員、市役所、社会福祉協議会と一緒に、団地に住む方々のために何かできないかと色々な取り組みを行っています。



坂の多い団地地区に暮らす高齢者に買物や散歩など気軽に外出してもらおうと、平成二十一年から実際に団地を歩いて回り検討を重ね、この九月八日にバス停付近を中心に九台のベンチを設置することができました。ベンチ作成については、活動の趣旨に賛同していただいた北海道白樺高等養護学校の協力で、生徒さ

んが一生懸命に心をこめて作成してくれました。

「今後も毎年ベンチを増やしていきたいな」「これで引きこもりが少なくなれば良いな」「このベンチが昔の縁側のように、交流の場になったら良いな」など、メンバー一人ひとり、自分達の住むこの北広島団地をいつまでも安心して住み続けることが出来る街にしたいという熱い想いが、この北広島団地を人にやさしい街に変えて行くのだと確信しております。

(みなみ支援センター

向山)



ボランティアふくろう

「ボランティア焼き肉交流会」

八月二日、

日頃の感謝の気持ちを含めまして、ボランティアの皆さんと法人数市内の東屋で焼き肉交流会をおこないました。以前から、東屋で焼き肉を……という話は出て

いましたが、天気などの関係もあり、今回は念願叶っての開催となりました。このボランティアを通して仲良くなったという方たちもおり、本当に和気あいあいとした交流会で、皆さんから逆に元気をもらったような気がしました。

今後は、DVD鑑賞会（美空ひばりさんや藤田誠さんなど、昔なつかしの映像です）なども企画中です。様々なイベントを通して、お客様とボランティアさんが触れ合う機会を作っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(ボランティア委員会 石川)



かたる! 夢とロマンを!



北広島団地
地域交流ホームふれて

地域交流ホームは住民の^{ちから}力で!

～北広島団地地域交流ホームふれて運営検討委員会～

北広島団地地域交流ホームふれてでは、地域住民をはじめ子育て世代や高齢者、障がい児者の方々が集い、交流を積極的に行うことでそれぞれの理解と地域での生活の孤立感を軽減するとともに、お互いを支え合うことのできるコミュニケーションづくりの場とし、地域の人たちの力やつながりによって、北広島団地地域交流ホームふれてに魂を吹き込むことが、地域の活性化・交流につながると考えます。そのために、地域の諸事情に精通している地域住民の代表八名の方に運営検討委員となっただき、交流室やキッズコーナー、喫茶スペースの具体的な活用方法、及び今後の運営委員会のあり方について検討しています。北広島団地地域交流ホームふれての運営は地域住民の力でなりたっていきます。

これまでの経緯と完成までの流れ

6月	・ 北広島団地地域交流ホームふれて 運営検討委員会の設置 (以下、地域交流ホーム運営委員会) ・ 第1回地域交流ホーム運営委員会
7月	・ 工事着工 ・ 「海の日」記念チャリティコンサート ・ 第2回地域交流ホーム運営委員会
8月 ～ 10月	・ 道新社会福祉振興基金寄付金贈呈 ・ 第3回地域交流ホーム運営委員会 ・ 第4回地域交流ホーム運営委員会 ・ 第5回地域交流ホーム運営委員会 以降随時開催予定
11月	・ 完成予定 ・ オープンセレモニー
12月	・ 事業開始

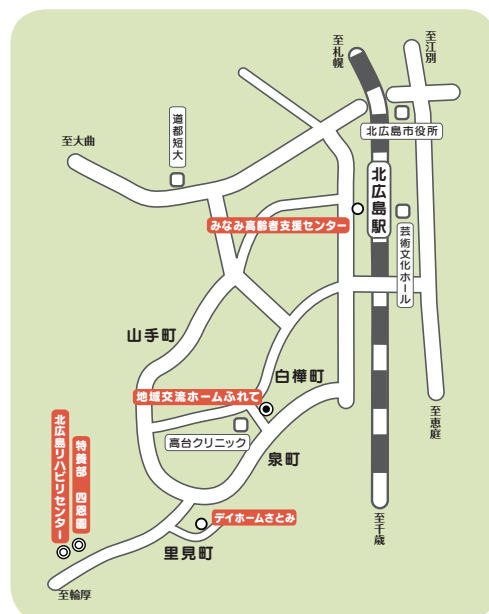
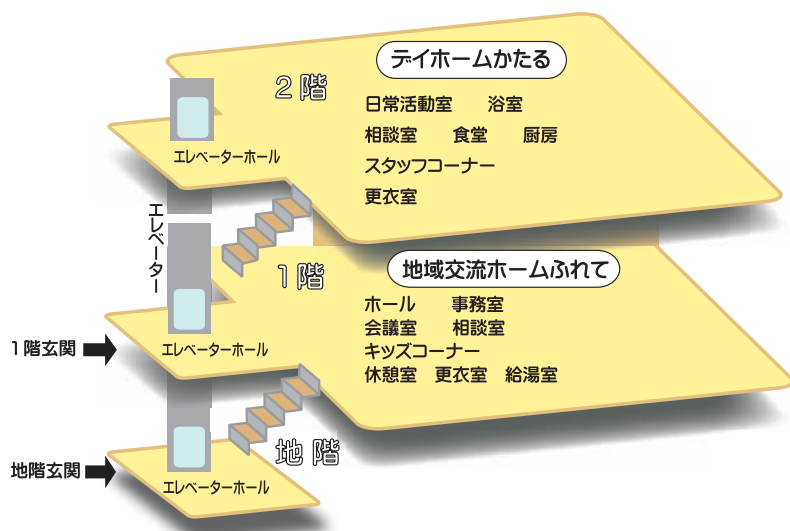


ともにふれて ともに 北広島団地地域交流ホームふれて

デイホームかたる 生涯現役・誰もが主役！ ～ニーズにあった新しいデイサービスをめざして～

近年、お客様のデイサービスへのニーズは社会交流と疾病・療養管理、入浴や排泄、食事等の日常生活の世話だけに留まらず、介護予防や健康促進、運動、仕事、趣味、障害学習など多種多様なものに変化してきており、お客様個々の価値観や生活習慣により密着したサービス提供が求められています。

デイホームかたるでは、デイサービスセンター四恩園で好評をいただいている入浴と食事を継続することはもちろん、利用される皆様が“生涯現役”“誰もが主役”でいられることを目標に①リハビリテーション（特に評価）を重視 ②地域交流ホームをフルに活用 ③日曜日もサービスを提供の三つを柱にサービスを実施していきたいと考えています。



～ミナパピリカ～』

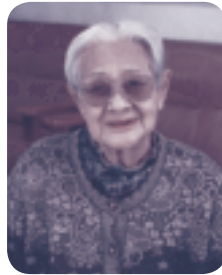
特養部

四恩園十五周年を迎えて

四恩園開設十五周年を迎え、今回は開設当時からいらっしゃる三名のお客様に十五年の思い出や、当時との変化についてお話を伺ってみました。



七宮照夫様は、「定年の後なんとなく行く所がなく探していたら、四恩園の話聞き、新しく良いなと思い入所を決めたんだ。十五年間、特に自分自身に変化は感じないけど、なんとなく毎日を過ごしてきた。」と冗談まじりに話されました。楽しかった思い出については、「温泉・イチゴ狩り等、色々な所に連れて行ってもらい楽しい思い出をさせてもらった。」又、自分の誕生日について、家では『誕生会』は行うこともないのでこの四恩園で皆に盛大に祝って頂き、今思うと幸せな思い出をさせてもらった事だそうです。これからも、畑いじりやたまに飲むお酒を楽しみに、元気に過ごしていきたいそうです。



宮田恒子様は、今と昔の違いについて「昔は園の周りや本館に遊びに行くのに職員に一声かければ一人で行けたが、今はすぐ外に行くのにも一人では行けなくなりました。それだけ歳をとって皆元気がなくなってきたのかもね。」と笑って話して下さいました。今現在も、職員と一緒に身体の調子が良い時は散歩へ出かけていらつしやいます。十五年間で一番楽しかった思い出を伺うと、「やっぱり温泉だね。」とも話されておりました。お風呂は元々お好きだったので、やはり温かい温泉とその後の馳走は格別だったそうです。

(宮田様は寄稿された後、十一月十八日ご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます)



丸山ツエ様は、十五年間について、「自分自身は入院したり胃ろうになったり、ベッドで過ごす事が多く、思い出といってもなかなか無かった。でも父さん(旦那様)が生きていた頃は毎日来て沢山面倒を見てくれた。本当に優しい人だったよ。」と話されておりました。今は、家族とお出掛けや愛犬が遊びに来てくれる事が一番楽しいと話されています。自他共に認める今の幸せだそうです。

晴れ女の丸山さん、園とは違う外の空気を吸って、家族や職員と美味しい物を食べるのがこれからの四恩園の二十周年、三十周年を共に祝いで頂き、同時に充実した日々を送って頂けたらと願っています。

(施設サービス課 奥野)

訪問看護

ススキノへ行こう！



みんなで飲むと楽しいね

残暑真っ盛りの九月四日土曜日の夜！わが訪問看護ステーション四恩園では初めて「ススキノツアー」の外出行事を敢行しました。外出行事は過去九年間継続していますが、「夜の外出はぜひとも実現したいと思っていた念願の企画でした。利用者四名と御家族一名、スタッフやボランティア七名で夜のススキノに繰り出しました。向かうはスナック「Kエタニティ」はじめは参加に不安だった方々もいつもと全く違う表情で、いつもと違う動きでビールやジュース、水割り片手に替え歌やデュエットと大盛り上がり！「月に一回、いや週に一回は企画してもらいたいね」との声も……

その方らしい生活の実現に向け今後もアツ！と驚く企画を考えようと決心したスタッフ達なのでした。

(訪問看護ステーション 町田)



心が弾みます



カラオケでデュエット♪

デイサービス

デイサービス 十五年目の敬老祭

九月十五日（水）と十六日（木）

にデイサービス「敬老祭」を開催させていただきました。ご参加の皆様

のお祝いと、節目のお歳の方のお祝いをさせていただき、お客さまにとってもこれまで歩んできた人生を振り返り、私たちにとてもその人生を敬うという素晴らしい行事になりました。四恩園十五周年という節目の年に、一〇〇歳というお歳を迎えたお客様がいっぱい、他のお客さまも「見習って長生きしたいよ。」と、ご参加した皆様が元気をもらっていました。これからも、お客様に楽しんで頂けるような行事を行っていきます。敬老の日、この場をお借りし、皆様に感謝申し上げます。

（デイサービス 富岡）



奥キヨ様 祝100歳



四恩園名物やすきぶし



みなさんに感謝です！

さとみ

「さとみのパワースポット」

車窓から眺める田園風景、恵庭岳を中心に見覚えのある樽前山、手稲山、気持ちよく車は進みます。「たまに温泉に行きたいね」

の声に答えて今年の敬老会は二段がさねのお祝いを企画しました。

まずは九月十四・十五日、デイホー

ムさとみで祝い膳をいただき、キレイなおねえさんのフラダンスを楽しみました。

つづいて二十五日は利用者の方と一緒に南幌温泉に行ってきました。お部屋で足を伸ばし、茶菓子を食べながら昼食のメニューに悩みながら温泉でリフレッシュ！ 昼食はやっぱり「キャベツ丼」が一番人気で、「ワァー！ 食べきれない」と言いながら大きなき揚げにビックリです。家族の方にも「一緒に温泉に来てよかったあ！」とおっしゃっていただきました。

南幌温泉はさとみのパワースポット

認定！

（デイホームさとみ 及川）



温泉で家族団らん

てんご盛り！



感染予防の標語

〈お客様、職員共々安心安全を第一に感染対策に努めましょう〉

油断する その手と心が命取り ～初心に戻り、しっかり手洗い最初から～ (感染対策委員会)

時を越えて～過去も現在も未来も……ずっと美しく～

2010年。政権交代や様々なニュースが飛び交うこの時代、多くの事が時代と共に変化してきました。そんな中、進化すると共に繰り返されているモノがあります。それが、「おしゃれ」への興味や関心の気持です。ではここで約60年程前の流行は何だったのかタイムスリップしてみましょう。

1950年代の日本は、消費文化が一挙に花開き、第二次世界大戦が終戦を迎えその傷跡が癒え始めた頃です。その50年代は、混乱の中から新しいモノを生み出そうというエネルギーに満ちており、新しい時代への期待と豊かさへの憧れが、ファッションに深く反映された時代でした。

また、世界的にアメリカンルックが全盛でした。ロックンロールの流行で、ポニーテールや水玉柄、「ニュー・ルック」という裾の広がったスカートなどが世の若い女性に人気でした。他にも映画女優のオードリー・ヘップバーンのスタイルも注目を浴びていました。

一方代表的な男性スタイルには、「太陽族」があげられるでしょう。1956年芥川賞を受賞した石原慎太郎（現在の東京都知事）の小説「太陽の季節」では戦後の不道德と言われた若者の姿が描かれており、映画化された後、作者である石原慎太郎の名前を冠した「慎太郎刈り」というスポーツ刈りの前髪を額に垂らしておく髪型や、演じた俳優達の服装などを真似た細身の「マンボズボン」にアロハシャツ、そして靴にサングラスといったスタイルの若者が多くみられ、彼らは「太陽族」と呼ばれるようになりました。

これらが今までの古い価値観を捨て自由を象徴する若者の間で流行ったスタイルです。

時代は繰り返され、美しく、綺麗でいたいという気持ちは永遠だと思います。その想いが人を明るく、優しい気持ちにさせ、多くの繋がりの掛け橋となっていくのでしょうか。(施設サービス課 河村)



憧れの太陽族

美への追求は永遠



その距離大丈夫？

生物には、ほかの生物にある程度接近されると、逃走や、闘争をする縄張りを持っているようです。人にも同様の空間と距離があるとされます。

親密距離	0-45cm	身体の接触が出来る距離。恋人、夫婦、赤ちゃんなどがこの距離にいることは許せるが、それ以外の人がこの距離に近づくと不快感が伴う。
個体距離	45-120cm	1人が手をのばせば相手に届く距離から、2人がともに手をのばせば手の届く範囲であり、友人同士の会話ではこの程度の距離がとられる。
社会距離	120-360cm	相手との接触は不可能であり、上役に報告を行うときにとられる距離。
公衆距離	360cm以上	講演会や演劇鑑賞のときにとられる距離。

状況に応じて、人には適当と感じられる距離があり、この距離が侵害されると不快感を抱く可能性があります。誰かと接する際には注意しておきたいものですね。

参考文献 Hall, E. T. 1966 The Hidden Dimension Doubleday & Company, Inc., New York

安全運転の標語

早めにつけよう車のライト 小さいことから事故防止 (交通安全委員会)

四恩園では、安全運転の標語と北広島市内交通事故危険マップを作成し職員一人ひとりが安全運転を心がけています。

編集後記

冬が近づくにつれ、いっそう寒さが身に沁みる今日この頃。今年はななかまどの実が例年より多くついているように思います。ななかまどの赤い実に、白い雪が積もる様は、まさに北海道の風物詩。冬は少しおっくうな気持ちになりますが、美しい景色を思い浮かべながら、冬の訪れを楽しみに待ちたいですね。

追伸、四恩園開設15周年を記念するとともに日頃より「四恩園NEWS」をご愛読いただいている皆様に感謝を込め、通巻40号はカラーでお届けいたします。

(ヘルパーステーション 石川)